

Asia Indicators

発表日: 2023 年2月3日(金)

韓国、1月の貿易赤字額は過去最高を更新(Asia Weekly(1/30~2/3))

~韓国のインフレ率は頭打ちが続いた流れから再加速するなど高止まりが続く~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/30(月)	(ニュージーランド) 12 月輸出(億 NZドル)	67.2	--	63.4
	12 月輸入(億 NZドル)	71.9	--	85.2
1/31(火)	(韓国) 12 月鉱工業生産(前年比)	▲7.3%	▲5.1%	▲3.4%
	(中国) 1 月製造業 PMI	50.1	49.8	47.0
	1 月非製造業 PMI	54.4	--	41.6
	(タイ) 12 月製造業生産(前年比)	▲8.2%	▲6.0%	▲5.1%
	(台湾) 12 月輸出受注(前年比)	▲23.2%	▲25.6%	▲23.4%
2/1(水)	(韓国) 1 月輸出(前年比)	▲16.6%	▲11.3%	▲9.6%
	1 月輸入(前年比)	▲2.6%	▲3.6%	▲2.5%
	(中国) 1 月財新製造業 PMI	49.2	49.0	49.0
	(インドネシア) 1 月消費者物価(前年比)	+5.28%	+5.40%	+5.51%
	(香港) 10-12 月実質 GDP(前年比・速報値)	▲4.2%	--	▲4.5%
2/2(木)	(韓国) 1 月消費者物価(前年比)	+5.2%	+5.0%	+5.0%
2/3(金)	(シンガポール) 12 月小売売上高(前年比)	+7.4%	--	+6.5%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]~世界経済の減速懸念による輸出入双方の下振れを受けて、1月の貿易赤字額は過去最高を更新~

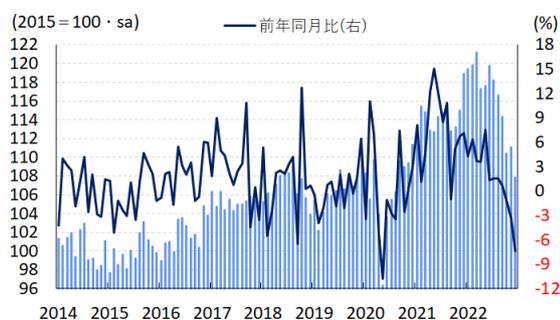
31日に発表された12月の鉱工業生産は前年同月比▲7.3%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲3.4%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲2.88%と前月(同+0.63%)から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いている。世界経済の減速懸念の高まりを受けた商品市況の調整の動きを反映して鉱業部門の生産が一段と下振れしたほか、製造業部門の生産も一段と下振れするなど、幅広い分野で生産活動への調整圧力が強まっている。主力の輸出財である半導体の生産に底堅い動きがみられるものの、電子部品関連や電気機械関連のほか、輸送用機械関連、化学関連などの重化学工業のみならず、服飾関連や食品関連など軽工業の生産も弱含むなど、全般的に生産活動に下押し圧力が掛かっている。平均設備稼働率も70.3%と前月(72.8%)から▲2.5pt低下して2年半弱ぶりの低水準となるなど、全般的に生産活動が低迷している。

1日に発表された1月の輸出額は前年同月比▲16.6%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲9.6%)からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は8ヶ

月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強める展開が続いている。最大の輸出相手である中国における春節連休の時期が重なったことに加え、中国でのゼロコロナ終了に伴う混乱のほか、欧米など主要国における景気減速懸念の高まりも輸出の重石になった可能性がある。一方の輸入額も前年同月比▲2.6%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲2.5%）からマイナス幅がわずかに拡大している。前月比は5ヶ月ぶりの拡大に転じるなど頭打ちの流れに一段感が出る動きがみられるものの、中期的な基調は減少傾向が続くなど流れが大きく変化する状況とはなっていない。輸出の低迷を受けて素材、及び部材など原材料に対する需要に下押し圧力が掛かっているほか、商品市況が調整の動きを強めていることも輸入額を下押ししている。結果、貿易収支は▲126.89億ドルと前月（▲46.92億ドル）から赤字幅が拡大し、単月ベースの赤字幅は過去最高を更新している。

2日に発表された1月の消費者物価は前年同月比+5.2%となり、前月（同+5.0%）から6ヶ月ぶりに伸びが加速に転じている。前月比も+0.76%と前月（同+0.16%）から上昇ペースが加速しており、食料品やエネルギーなど生活必需品を中心とする物価に押し上げ圧力が掛かっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+4.1%と前月（同+4.1%）と同じ伸びで推移しており、インフレ率とともに中銀の定めるインフレ率（2%）を大きく上回る推移が続いている。前月比も+0.61%と前月（同+0.27%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの押し上げや通貨ウォン安に伴う輸入物価の上振れも重なり幅広く財価格に上昇圧力が掛かる展開が続いているほか、経済活動の正常化が進んでいる上、春節連休のタイミングが重なったことも影響してサービス物価も押し上げられるなど、幅広くインフレ圧力がくすぶっている。

図1 KR 鉱工業生産の推移



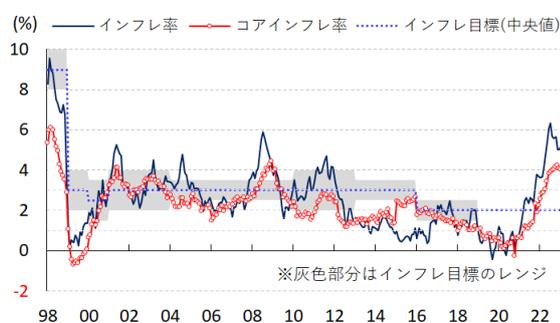
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 KR 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 KR インフレ率の推移

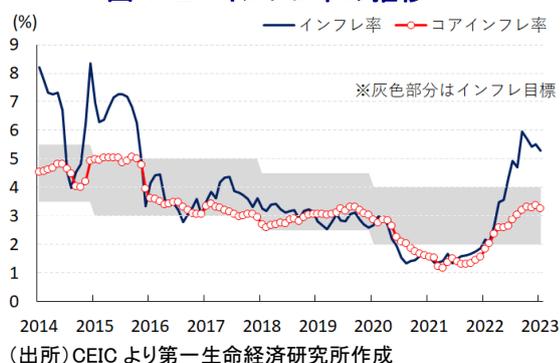


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インドネシア]～インフレ率、コアインフレ率ともに伸びは鈍化も、依然としてインフレ圧力がくすぶる展開は続く～

1日に発表された1月の消費者物価は前年同月比+5.28%となり、前月（同+5.51%）から鈍化して5ヶ月ぶりの伸びとなるも、中銀の定めるインフレ目標（3±1%）の上限を上回る推移が続いている。前月比は+0.34%と前月（同+0.66%）からペースこそ鈍化するも3ヶ月連続で上昇しており、原油などの国際価格の上振れの動きに一服感が出ていることを反映してエネルギー価格は下落する一方、食料品価格は上昇の動きが続くなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.27%となり、前月（同+3.36%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+0.33%と前月（同+0.22%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の下落の動きを反映して輸送コストに下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、昨年末にかけて国際金融市場において通貨ルピア相場の調整の動きに一服感が出るも輸入物価が上振れしやすい状況が続くなかで幅広く財価格が押し上げられているほか、経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も押し上げられるなど、全般的にインフレ圧力が掛かりやすい状況は続いている。

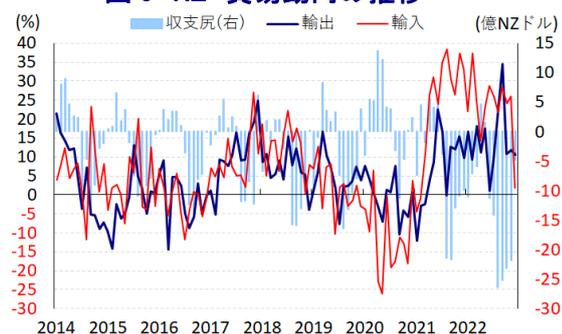
図4 ID インフレ率の推移



[ニュージーランド]～乳製品関連を中心に輸出は底堅い一方、商品市況の調整を受けて輸入は大幅に鈍化～

30日に発表された12月の輸出額は前年同月比+10.5%となり、前月（同+11.8%）から伸びが鈍化している。前月比も▲1.6%と前月（同+2.4%）から2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。主力の輸出財である乳製品関連の輸出は堅調な動きをみせる一方、食肉関連や木製品関連、原油及び石油製品関連、果物など幅広い分野で輸出に下押し圧力が掛かったことが輸出全体の足を引っ張っている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けはゼロコロナ政策の終了を受けて頭打ちが続いた流れが一変しているほか、隣国の豪州向けも底堅い動きをみせる一方、ASEAN（東南アジア諸国連合）向けなどアジア新興国向けの鈍化の動きが輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+1.8%となり、前月（同+26.1%）から大きく伸びが鈍化している。前月比も▲10.4%と前月（同+2.0%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出の堅調さと対照的な動きをみせている。昨年末にかけての原油市況の調整の動きを反映して原油及び石油製品関連の輸入が大きく下振れしているほか、機械製品関連や電気機械関連など幅広く輸入額に下押し圧力が掛かる動きがみられる。結果、貿易収支は▲4.75億NZドルと前月（▲21.80億NZドル）から赤字幅が大きく縮小している。

図5 NZ 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～電子部品関連の受注は底堅く推移するも、それら以外の分野で幅広く受注に下押し圧力が掛かる～

31日に発表された12月の輸出受注額は前年同月比▲23.2%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲23.5%)からわずかにマイナス幅は縮小している。前月比も+3.68%と前月(同▲11.65%)から4ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちの兆しが見られるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの流れが変わるには至っていない。国・地域別では、米国向けや欧州向けなど先進国向けを中心に底堅い動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国本土向けやASEAN向けなどアジア新興国向けが力強さを欠く展開をみせることが重石となっている。財別でも、主力の輸出財である半導体など電子部品関連では底堅い動きがみられるものの、化学製品関連や繊維製品関連、金属関連や鉱物資源関連の受注が弱含んでいることが全体の足かせとなっている。

図6 TW 輸出受注の推移

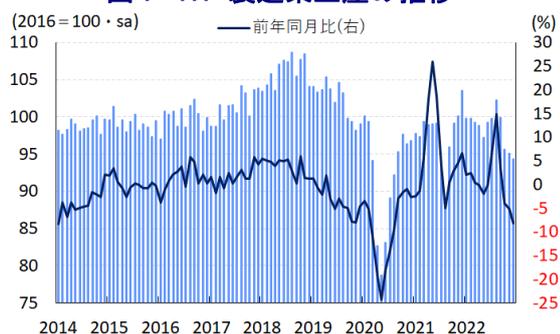


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～世界経済の減速懸念の高まりを受け、幅広い分野で生産活動に下押し圧力が掛かる動きが鮮明に～

31日に発表された12月の製造業生産は前年同月比▲8.2%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月(同▲5.1%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲0.74%と前月(同▲0.58%)から4ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。主力の輸出財である自動車など輸送用機械関連のほか、電気機械関連、化学関連、金属関連など幅広い分野で生産活動に下押し圧力が掛かっており、世界経済の減速懸念の高まりが生産活動の足かせになっている様子がうかがえる。

図7 TH 製造業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～雇用環境の底堅さも追い風に耐久消費財関連を中心に家計消費は堅調な推移が続く～

3日に発表された12月の小売売上高は前年同月比+7.4%となり、前月(同+6.5%)から伸びが加速した。前月比は+1.26%と前月(同▲3.62%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。同国では月ごとの自動車販売が上下に振れるとともに、小売売上全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比+3.67%と前月(同+2.17%)から2ヶ月連続で拡大するなど、頭打ちが続いてきた状況からの底打ちを示唆する兆しが出ている。なお、自動車を除いたベースでも前月比は+0.97%と前月(同▲4.26%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。娯楽関連の消費は弱含む動きがみられるものの、調整が続いた宝飾品関連やコンピュータ関連の消費に底打ち感が出ているほか、家具など耐久消費財に対する消費の底堅さも下支えしており、世界経済の減速懸念の高まりにも拘らず雇用環境が底堅く推移していることも影響している。

図8 SG 小売売上高の推移



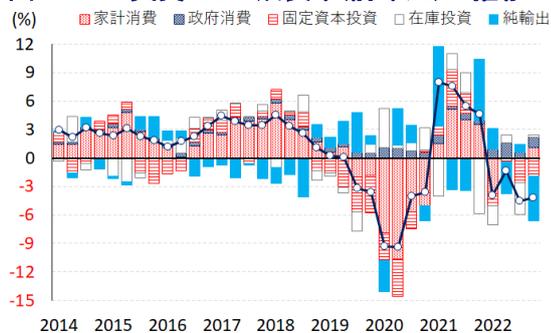
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～中国本土におけるゼロコロナ戦略が景気の足かせとなり、2022年の成長率は▲3.5%とマイナス成長～

1日に発表された10-12月の実質GDP成長率(速報値)は前年同期比▲4.2%と4四半期連続のマイナス成長で推移しているものの、前期(同▲4.5%)からマイナス幅は縮小している。前期比年率ベースの成長率は+0.00%と前期(同▲9.98%)から2四半期ぶりにマイナス成長を脱するもゼロ成長に留まるなど、力強さを欠く展開が続いている。中国本土におけるゼロコロナ終了の動きを反映してサービス輸出が底打ちしているほか、家計消費や政府消費が押し上げられる動きがみられる一方、サプライチェーンの混乱の動きを反映して財輸出は下振れするとともに、企業部門による設備投資が弱含んだこと

を受けて固定資本投資に大きく下押し圧力が掛かるなど、景気押し上げの動きを相殺した格好となった。なお、昨年通年の経済成長率は▲3.5%と前年(同+6.4%)から2年ぶりのマイナス成長に転じており、中国本土におけるゼロコロナ戦略への拘泥が景気の足を引っ張ったと捉えられる。

図9 HK 実質 GDP 成長率(前年比)の推移



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。